

# りぶまぐ！

*vol.2.5*

器

算

母

# 目次

1

小野不由美／大崎千春

2

米澤穂信／百足祐希乃

3

三浦しをん／川村美涼

# 許す

小野不由美

わたし、気になります！

米澤穂信

なにしろ  
遠くて帰りに  
湯冷め

三浦しをん

# 小野不由美が好きだ。

初めて小野不由美作品を読んだのは中学生の時、〈ゴーストハント〉シリーズでした。その時はホラー作品は苦手だったのにもかかわらず、文字通りの怖いもの見たさと友達に強くお薦めされたことが後押しして、読み始めたのでした。『ゴーストハント』は幽霊退治が中心のお話で、怪現象やら悪霊やら祟りやらがたくさん出てきます。読み始めてみると、やっぱり怖い。でも読み進めてみると、ただ怖いだけじゃないことに気が付きます。ホラーな部分は発生する怪現象や幽霊の原因となる逸話・歴史などのその背景が驚くほど綿密に描かれているし、登場人物たちも魅力的。さら

にシリーズを通して謎が明らかになるミステリーの要素を含んだストーリーで、夢中で読み終わってしまいました。ホラーの「怖い」と「ワクワク」を同時に感じられる『ゴーストハント』を読んだことから、小野不由美という作家さんの作風に惹かれていきました。

小野不由美作品の魅力は本格的なホラー描写や濃密なストーリー、謎解き要素だけではありません。そこに登場する人間一人ひとりの描かれ方にもあるのではないかと感じます。簡単にいうと、「世の中色々な人がいて、それぞれ別の人生、考えを持っていて当たり前なんだ」と気づかせてくれるのです。

前述した『ゴーストハント』においても、主人公を中心に、自分にとっては『善』でも誰かにとっては『悪』という事が非常に表れていると思います。

また、これは『月の影の海』をはじめとする『十二国記シリーズ』で特に顕著に描かれていると感じます。異世界のファンタジーとしてこちらとは別の世界が描かれているお話なのですが、そこに生きる人々は非常に現実的で生々しく描かれているのです。むしろ、他人の気持ちを汲み取ったり推し量ったりすることが当然という現代社会の方がおかしいのでは思うくらいに、『十二国記』の中には多様な考えをもった人々が描かれています。

小野不由美作品の魅力を私なりに伝えさせてもらいましたが、興味のあるポイントは見つかったでしょうか？ホラーが好きでもよし、ミステリーが好きでもよし、また色々な人の人生に触れたいということでもよし、小野不由美作品に触れるなにかのきっかけになれば幸いです。

#### 小野不由美

大分県中津市生まれの作家。京都府の大谷大学に進学し、在学時に京都大学推理小説研究会に在籍。一九八八年作家デビュー。一九九四年に刊行された『東京異聞』が話題を呼ぶ。二〇一三年『残穢』が山本周五郎賞を受賞し、二〇一五年に映画化もされた。著書に『ゴーストハント』シリーズや『屍鬼』『黒祀の島』、『十二国記』シリーズなど、ホラー要素をもつミステリーやファンタジー作品がある。

# 米澤穂信が好きだ。

## 作家紹介

一九七八年岐阜県生まれ。二〇〇一年に『氷菓』で角川学園小説大賞激励賞(ヤングミステリー&ホラー部門)を受賞しデビュー。「古典部」シリーズや「小市民」シリーズなど、青春小説とミステリを融合させた小説で有名…とはいえそれ以外の小説もめっちゃくちゃ面白いです。いつもありがとうございます本当に大好きです。

## 作品紹介 『氷菓』

「古典部」シリーズ第一巻。米澤作品を語るのには外せない一冊です。アニメ、漫画、映画で知った方も多いはず。省エネ男子高校生が好奇心旺盛お嬢様に謎解きを迫られる系(?)ほろ苦青春ミステリ! えるたそ〜(小声)

## 作品紹介 『インシテミル』

こちらにも映画で有名な代表作。しかし、「古典部」シリーズが学園もので日常の謎を扱っているのに対し、こちらは閉鎖空間でのデスゲーム。破格のおねだんなお仕事（ある人文科学的実験の被験者となること）に参加した十二人の男女。御察しの通り、そのお仕事とは、多額の報酬のために参加者同士で殺し合い、犯人を当てるというものだった……ってやつです。ホラーかよ！……って思いました？安心してください！犯人探しがメインのため、ホラー的な怖さはないですよ！変な先入観を持たずに是非とも読んでいただきたい……！

ここで紹介した作品はどちらもド定番です。もつとクセの強いステキな米澤作品も図書館にありますので、こちらも是非！最後に一つだけ。米澤先生マジで大好きだーっ！

「乙 女がげやり」「悶

絶スパイフル」「桃色トワ

イライト」この3つのタイ

トルズピンと来る人はい

いだろうか。では「月魚」

「まほろ駅前シリーズ」

「神去なあなあ夜話」この

辺りのタイトルズをおやと思

う人がちらほらいると想像

できる。そして「風が強く

吹いている」「舟を編む」

この2つのタイトルは映画

化やドラマ化をしたという

こともあり、一度は聞いた

事があるという人も多いだ

ろう。そう、私が今回紹介

する作家は三浦しをんその

人である。

私が三浦しをんさんのど

うかが好きなのかを語るまえ

に、どのような経歴なのか  
という事を紹介していこう  
と思う。

彼女の出身は私たちと同じ  
く早稲田大学である。つま  
り私たちの先輩といっても  
過言ではない。この事実で  
すつし親近感がわいてこな  
いだろうか。さらに言うと  
第二文学部に所属していた  
ため、文キャン民はもしか  
したら同じ席に座ることが  
出来るという可能性もある。  
話が脱線したので戻すこと  
にしよう。その後どうなっ  
たかという就職活動をお  
こなったのだが就職氷河期  
という時代もあり、受けた  
出版社にいくとごとく落ちて  
しまう。しかし辛いことだ  
けではなく、新しい出会い

もあった。その出会いとは  
ある編集者との出会いであ  
る。その編集者の勧めによ  
ってWEB上での連載とい  
う形でエッセイを書き始  
めることになった。もしそ  
の出会いがなければしをん  
さんが作家になつていろこ  
とはなかったのではないが  
自身の就活経験を生かして  
その後デビュー作「格闘す  
るもの」を書くこととな  
る。その後も冒頭(あげ  
たように)多々の書籍を出し  
続けていく。

では三浦しをんさんの好き

な事を挙げていこう。まず  
ひとつ目に好きなところ  
は文章の要因気である。テン  
ポ感がよく、軽すぎず



# 三浦しをんが好きだ。

重すぎないのでする。すると気持ちよく読める。また言葉の選び方のセンスといったものも心地よさを作り出している二因であると思う。

## ふたつ目は小説の登場

人物の登場人物の関係性である。同性でも異性でも二言では説明することが出来ない関係性の描き方がとてもすてきではないかと思う。友人、相棒はたまたまだの知人……どの言葉もしっくりこない。そんな関係性の登

場人物といったのも魅力のひとつではないだろうか。そして三浦しをんさんの最大の魅力はエッセイだ。エッセイからみえる普段の日常に転がっている出来事を切り取るその目線が好きだ。ただの日常が三浦さんの思考のフィルターを通すことで1000度違う日常へと変化する。そんな感覚を味わえるエッセイの醍醐味である。まだまだ魅力はたくさんあるがどうやっても言い尽くすことはできない。

## 普段本をあまり読まないという人はもちろん

小説は読むけどエッセイは読まないという人にも三浦しをんさんのエッセイはうってつけである。是非実際に本を読んで魅力をも十分に味わって欲しい。

# 図書資料情報

## 小野真由美

- ・『月の影・影の海 上巻』  
中央2F 一般図書 一般・新潮文庫 お 37
- ・『図南の翼』  
中央2F 一般図書 一般・新潮文庫 お 37 59
- ・『ゴーストハント1』  
教育学読 一般和書 913.6オ

## 米澤穂信

- ・『氷菓』  
法学読 文庫・新書 角川文庫 よ-23-1
- ・『インシテミル』  
戸山(文芸/ジャーナリズム) J913.6 1048
- ・『満願』  
中央2F 一般図書 一般・新潮文庫 よ-33-4

## 三浦しをん

- ・『乙女なげやり』  
中央 2F 一般図書 一般・新潮文庫 み-34-7
- ・『悶絶スパイラル』  
中央 2F 一般図書 一般・新潮文庫 み-34-11
- ・『風が強く吹いている』  
中央 2F 一般図書 一般・新潮文庫 み-34-8

※掲載した配架場所は一部です。詳しくはWINEをご覧ください。



# LIVSの活動



- ・ わせとしょ探検隊！  
～発掘！早稲田のBBN～

あの人気Web連載企画が帰ってくる！様々なテーマのもとで、図書館の利用方法や魅力をお伝えします。12月下旬から随時公開予定、お楽しみに！

<https://www.waseda.jp/library/news/2016/12/15/2679/>

- ・ りぶまぐ！

2016年以降、定期刊行している『りぶまぐ！』LIVSスタッフおすすめの本から、図書館の魅力まで、楽しい記事を掲載しています。2018年春にはvol 3が発行されます。ぜひお手にとってみてください！

- ・ Library Gifts あなたに贈る本

この冬は、LIVSメンバーが大切に思う人に贈りたい本を厳選して中央図書館に展示致します。

来年度の春には人気企画、「一行展示」を再び開催。LIVSメンバーが中央図書館をまたまたジャックし、皆さまの心にエールを送ります！！





Presented by  
Waseda University Library Volunteer Staff “LIVS”

『りぶまぐ!』 vol.2.5 露草号 2017年12月15日発行

編集・発行：早稲田大学図書館・ボランティアスタッフLIVS

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1 早稲田大学中央図書館 利用者支援課

TEL : 03-5286-1659

<http://www.wul.waseda.ac.jp/CLIB/livs/>

※本誌掲載の写真、記事、図版等を無断で転載・模写することを禁じます

本PDFは、執筆者の許諾のうえ冊子版を電子化し、  
「早稲田大学リポジトリ」より公開するものです。  
無断転載・転用を禁じます。

早稲田大学図書館